

## 『今日を価値ある日に』 コリント人への手紙第二章1～10節 2016.5.1(礼拝説教より)

『私たちが滅びうせなかったのは、主の恵みによる。主のあわれみは尽きない…それは朝ごとに新しい…』 哀歌 3:23

◆『礼拝に出た人?』と聞かれて「は～い!」でも、『礼拝した人は?』『…』。『結婚している人?』『は～い』では「日々愛し合っている人?」「…」。人として一番大切なのは何なのか?

◆神様が私たちに懇願している第一のことは、「神の恵みをむだに受けないように(6:1)!」「むだに」とは、「空しく、意味なく」の意。そもそも私たちは、神の恵みの意味が分からない。この世は全て条件つき!「もしあなたが愛してくれたら、私も愛する(してくれないなら、しない)」の世界。神が、絶対に赦されるはずのない私の罪と汚れの処罰を、身代りに十字架でキリストが受けられ、それを信じた者を赦し、生涯を祝福し、天国の永遠の安息を約束する…。そんな恵みの意味・大きさは測り知れない!

◆アブラハムは、神を信頼せず、繰り返し偽った。モーセは、正義感からとはいえ怒りをコントロールできず、人を殺し、ダビデは、神の信頼を裏切り、恥ずべき姦淫と殺人を犯した。ペテロは、優しく愛し育まれたキリストを真っ先に裏切り、パウロは、熱心ではあったが、神の御心を間違えて、クリスチャンを次々と牢屋にぶち込み処刑した!後々、生涯をかけて神の愛を伝えたこれらの人は全員、徹底的に自分の罪深さを知らされ、圧倒的な神の恵み深さを知った人たち!自分の心の汚れ、日々の生活の罪深さの知ることなしに、神の恵みの意味も大きさもわからない!その恵みを受け取った人は、「赦し・思いやり・優しさ・愛」を与える人に変えられる!

◆続けて聖書は、私たちに『今日を最高に価値ある日として生きること』を語る。「確かに、今は恵みの時、今は救いの日です!」神の恵みを知る人は、人の躰きとならないように、人が神の恵みと出会えるように、「今、日々」生活態度に気をつけるのだと言う。人は誰もが、日々精神的に追い詰められ、日々肉体的にも限界を感じ、精根尽き果てるような日々…。しかし人がひとたび、真実な神の愛を知り、その方の恵みの中に歩む時、あらゆる試練も悩みも、不安も恐れも解消していくことを経験する!「たとい、死の陰の谷を歩くことがあっても、私はわざわざを恐れません。あなたが私とともにおられますから(詩篇 23:4)」。神の恵みは「今」受け取り、「日々」新たに実感するもの!

★今日、主としっかりとつながり、今日、誰かとその恵みを喜び、感謝し、分かち合う日となりますように!